

平成24年6月11日

観光振興課奈良町にぎわい係
電話 34-5135

奈良市きたまち鍋屋観光案内所（旧鍋屋交番きたまち案内所）の開所について

奈良警察署旧鍋屋連絡所は明治41年に設置され、昭和3年に現在の半田横町に移転されてからも地域の住民や観光客に「鍋屋の交番」として親しまれてきました。

平成16年に連絡所が閉鎖された後は、地元の皆様を中心として地域の拠点として活用したいという声が上がりました。同じころ、奈良市としても、きたまちの観光振興を図っていく上で、この地に地域に根差した観光案内の拠点を整備する必要性を感じていました。また、奈良女子大学でも教員や学生が地元に入り、地域に学ぶ実践的な教育の場を求めていました。

このように、連絡所の活用について、地域を活性化していきたいという地域の皆様・大学・市それぞれの思いが一致したことから、三者が協働して運営していくことになりました。そして、建物の改修と運営を行う上での協議を進め、この度、案内所として開所することになりました。

奈良市きたまち鍋屋観光案内所は、奈良市で初めて、地元の皆様との協働により運営される案内所施設となります。この案内所の開所によって、地域の観光案内や地域活動の活性化、大学の研究・教育拠点など、さまざまな活動を実践していくことを目指しています。

[施設概要]

名称	奈良市きたまち鍋屋観光案内所 （旧鍋屋交番きたまち案内所）
所在地	奈良市半田横町37番地の2
構造等	木造洋風建築
延床面積	35.3㎡
施設内容	執務室、畳の間

[開所時間]

10:00～16:00

[休所日]

- ・毎週水曜日
その日が休日の場合は、直後の休日でない日
- ・休日の翌々日
その日が、日曜日、土曜日及び休日を除く
- ・12月27日～1月5日

[アクセス]

近鉄奈良駅より北へ500メートル



[開所式典概要]

日時 平成24年7月1日(日)午前10時から
主催 奈良市、奈良女子大学、鍋屋連絡所の保存・活用と“奈良きたまち”のまち
づくりを考える会
場所 奈良市半田横町37番地の2
奈良市きたまち鍋屋観光案内所

[案内所の連絡先]

TEL 0742-23-1928

奈良警察署旧鍋屋連絡所が現在地に移築された年、1928(昭和3)年にちなんでいます。

[委託先]

鍋屋連絡所の保存・活用と“奈良きたまち”のまちづくりを考える会
会長 八木 富造

奈良警察署旧鍋屋連絡所の建築

沿革

奈良警察署旧鍋屋連絡所は、明治41年(1908)に設置された「鍋屋巡查派出所」を起源とします。

当初は現在地から50mほど南の鍋屋町にありましたが、昭和3年(1928)に半田横町の現在地に移転したとされます。昭和35年(1960)「巡查派出所」の「派出所」への改称があり、その後「鍋屋派出所」は昭和40年代に廃止されますが、昭和48年(1973)からは「鍋屋連絡所」として使用されました。平成16年(2004)にその機能を終え、閉鎖されました。現在地に移転した後も地元の人々からは「鍋屋の交番」と呼ばれ、親しまれていました。

建物概要

西面、南面を道路に接する、南北4間、東西2間の木造洋風建築です。南西隅を隅切りして入口を設けます。平面は南半分を執務室、北半分を廊下・宿直室(畳の間)としています。屋根は寄棟とし、隅切り部には切妻の飾り破風と棟飾りを載せます。

南面東側に切妻造、檼瓦葺の和風建築の付属棟があり、便所・物置に使われていました。

外壁は木の柱を現わさない大壁造りで、セメントモルタルで柱形と上部に梁形、基礎の上に巾木を造り出します。

入口は木製の両開扉とし、窓は木製の欄間付き上げ下げ窓で、鉄板を細工した簡素な庇を付けています。

内部は執務室の壁、天井は当初は漆喰塗りで、廊下・宿直室の天井は板張りペンキ塗りで、壁は漆喰塗りでした。

今回の修理工事概要

【修理前の状況】

柱や土台など木部の腐朽箇所が多く、建物に擦じれと倒れを生じており、また屋根、壁、建具等全般にわたり老朽化が著しい状況でした。

【基本方針】

近代洋風建築としての歴史的価値と、長年にわたり交番として親しまれてきた建物の雰囲気損なうことなく、これからの新たな活用に供するための修理を行うこととしました。

修理設計の時点では当初の姿の全容が明らかではなかったため、修理年代は昭和

30年代の修理後の姿としました。

【修理内容】

建物の安全性と耐久性を高めるため、コンクリート基礎の補強、腐朽材の取り換え、振じれ・倒れの是正、屋根葺き替え等を行いました。屋根葺材は設計時点では当初の仕様が明らかではなかったため、今回の修理は波型鉄板の現状修理としました。入口建具は両開き扉に戻し、その他上げ下げ窓や壁の修理を行いました。

執務室と畳の間を隔てていた押入を執務室からの踏込みに改造し、二部屋を一体化して、案内所として使用する上での利便性を計りました。当初から用いられていた材料で再利用可能なものは再利用しました。修理では、当初の漆喰塗り箇所は予算上の都合から、ボード張り下地に水性塗料塗りに替えています。外壁、軒先樋、飾り破風の色彩は、昭和30年代も当初と変わりがないと考えられましたため、当初の色彩を探り、屋根は昭和30年代の色彩で修理しました。

今回の修理工事で明らかになったこと

【建築時期】

移築した痕跡は無く、鍋屋町から現在地に移転したとされる昭和3年頃、新たに建築されたものと考えられます。

【修理、改造の変遷】

建築後の主な修理、改造はおおむね3回認められます。昭和30年代に壁漆喰の修理、昭和50年代にも壁修理と入口建具を両開き扉から引違い戸に改造。昭和60年頃執務室の壁、天井の漆喰塗りをボード張りに改造しています。その他、時期は特定出来ませんが屋根葺材を当初材から波型鉄板に変更し、更に一度葺き替えています。また宿直室を6畳から4畳半に改造し、廊下を設けていました。

【当初の屋根葺材】

「人工スレート菱葺」と呼ばれるもので、約25センチ角の人工スレート平板を45度回転し、菱形に並べていく工法。

建物評価

- * 昭和初期の「巡查派出所」の形態を留め、当初の姿をよく残しています。
- * 奈良女子大学の前身である奈良女子高等師範学校の建物の意匠を意識し、当時の建築技術であったセメントモルタルで洋風建築を表現しています。
- * 奈良女子大学記念館・正門等、近隣の伝統的町家、奈良奉行所馬場跡等からなる歴史的景観の核となっています。

近代における「巡查派出所」の希少な遺構として価値は高く、また地元住民はじめ関係各位の協力のもと、新たな活用が期される幸運な建物です。

位置図

